

ふりがな

わかお まさき

氏名

若尾 政希

## 1. 学歴

- 1979年4月 愛知教育大学教育学部中学校社会科の課程 入学  
1983年3月 同上 卒業  
1983年4月 東北大学大学院文学研究科博士前期2年の課程（日本思想史学）入学  
1986年3月 同上 修了  
1986年4月 東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程（日本思想史学）入学  
1988年3月 同上 単位取得退学

学位：(西暦) 2005年5月 博士(文学) 東北大学

## 2. 職歴・研究歴

- 1988年4月1日～93年3月31日 東北大学助手（文学部附属日本文化研究施設）  
1993年4月1日～94年3月31日 東北薬科大学非常勤講師  
1994年4月1日～1998年9月30日 富山大学人文学部助教授  
1998年10月1日～2000年3月31日 一橋大学社会学部助教授  
2000年4月1日～2006年3月31日 一橋大学大学院社会学研究科助教授  
2006年4月1日～ 現在に至る 同上 教授  
2014年10月1日～2017年9月30日 日本学術会議連携会員を兼任  
2017年10月1日～ 現在に至る 日本学術会議会員（特別職国家公務員）、同史学委員会委員長を兼任

## 3. 学内教育活動 [着任年以降]

### (A) 主な担当講義名

#### (a) 学部学生向け

日本思想史総論、日本社会史特論、史料講読、社会研究入門ゼミ

#### (b) 大学院

日本近世史、日本思想史

### (B) ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

- 1) 日本思想史研究、2) 日本近世史研究、3) 歴史教育、4) アーカイブズ研究、5) 書物・出版研究

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- ・歴史学研究会編『コロナの時代の歴史学』（共著）、績文堂出版、2020（分担部分：第7章「いま歴史研究に何ができるのか—若手研究者問題を中心に—」）、150-157
- ・韓国・檀国大学校日本研究所『東アジア知識人文学の実際』（共著）（総論）（総論）（ハングル）、韓国・BOGOSA、2020（分担部分：「天道と日本近世の政治・社会・個人」）、131-160
- ・長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』（共著）、岩波書店、2020（分担部分：第3章「日本近世における自己語りの諸相—「我」と天道の間で—」）、75-104
- ・若尾政希『百姓一揆』（単著）、岩波書店、2018、240
- ・水林彪・青木人志・松園潤一郎編『法と国制の比較史—西欧・東アジア・日本—』、評論社、2018（分担部分：「天道と日本近世の政治・社会」、511-529
- ・歴史学研究会（大門正克・小沢弘明・岸本美緒・栗田禎子・中野聡・若尾政希）編『第4次現代歴史学の成果と課題1—新自由主義時代の歴史学—』（共編著）、績文堂出版、2017
- ・歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題3—歴史実践の現在—』（共編著）、績文堂出版、2017（分担部分：「はしがき」「書物を史料として歴史を読む」）、227-238
- ・歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題2—世界史像の再構成—』（共編著）、績文堂出版、2017（分担部分：「「民衆」の問い方を問い直すII日本近世史研究から」）、159-174
- ・東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか—』（共著）岩波書店、2017.4（分担部分：「思想史という立ち位置」）p.265-283
- ・明治維新史学会（編集担当小林文広・若尾政希）編『講座明治維新 第10巻 明治維新と思想・社会』（共編著）、有志舎、2016（分担部分：「第1章 近世後期の政治常識」）、21-56
- ・若尾政希編『書籍文化とその基底』（編著）、平凡社、2015（分担部分：序章、「近世日本の読書環境・流通環境」）7-43、87-122
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教6 他者と境界』（共編著）、春秋社、2015
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教5 書物・メディアと社会』（共編著）、春秋社、2015（分担部分：「書物・メディアと社会」）
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教4 勸進・参詣・祝祭』（共編著）、春秋社、2015
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教3 生と死』（共編著）、春秋社、2015.
- ・歴史科学協議会編『歴史の「常識」を読む』（共著）、東京大学出版会、2015（分担部分：「出版文化—書物は社会をどう変えたのか—」）
- ・田尻祐一郎他編『日本思想史講座5 方法』ペリかん社、2015（分担部分：「書物と民俗のはざままで」）、149-164
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教2 神・儒・仏の時代』（共編著）、春秋社、2014（分担執筆）「総論：神・儒・仏の時代」、「神・儒・仏の交錯—「太平記読み」とその時代—」
- ・島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教1 将軍と天皇』（編著）、春秋社、2014
- ・Matthias Hayek, Paris Diderot University and Annick Horiuchi, Paris Diderot University (ed.) Listen, Copy, Read Popular Learning in Early Modern Japan (co-author), koninklijke brill nv, leiden, 2014（分担執筆：「Ideological Construction and Books in Early Modern Japan—Political Sense, Cosmology, and World Views—」）
- ・吉田裕・藤井讓治他編『岩波講座日本歴史第11巻・近世2』（共著）、岩波書店、2014（分担部分：「江戸時代前期の社会と文化」）

- ・『岩波講座 日本の思想 第四巻 自然と人為』(共著), 岩波書店, 2013 (分担部分: 農業の思想)
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集6 方法としての思想史』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集5 戦後知と歴史学』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集4 近代化日本の深層』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集3 宗教とコスモロジー』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集2 民衆運動の思想』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・島藺進・成田龍一・岩崎稔・若尾政希編『安丸良夫集1 民衆思想史の立場』(共編著), 岩波書店, 2013
- ・若尾政希『「太平記読み」の時代—近世政治思想史の構想—』(単著), 平凡社, 2012.
- ・『近世の政治思想論—『太平記評判秘伝理尽鈔』と安藤昌益—』(単著), 校倉書房, 2012.10.25
- ・須田努・超景達編『比較史からみた近世日本—「東アジア化」をめぐる—』(共著), 東京堂出版, 2011 (分担部分: 「近世日本の思想的位置」)
- ・宮地正人他編『新体系日本史4 政治社会思想史』(共著), 山川出版社, 2010.10.10
- ・若尾政希・菊池勇夫編『<江戸>の人と身分5 覚醒する地域意識』(共編著), 吉川弘文館, 2010
- ・平野寿則・大桑齊編『近世仏教治国論の史料と研究 松平開運録／東照宮御遺訓』(共著), 清文堂出版, 2007
- ・『東洋文庫ガイドブック2』(共著), 平凡社, 2006 (分担部分: 「書物から時代を読む」)
- ・鶴飼政志・蔵持重裕・杉本史子・宮瀧交二・若尾政希編『歴史をよむ』(共編著), 東京大学出版会, 2004
- ・若尾政希『安藤昌益からみえる日本近世』(単著), 東京大学出版会, 2004、429
- ・青森県『青森県史・学芸関係』(共編著), 青森県, 2004
- ・青木美智男・若尾政希編『展望日本歴史16 近世の思想・文化』(共編著), 東京堂出版, 2002
- ・若尾政希『「太平記読み」の時代—近世政治思想史の構想』(単著), 平凡社, 1999、350

## (b) 論文

- ・「土佐における「書物・出版と社会変容」研究の概況」『中国四国歴史学地理学協会』通巻16号, p.1-11, 2020.3
- ・「『シリーズ〈本の文化史〉3』を編みながら考えたこと」『歴史科学』通巻237号, p.1-8, 大阪歴史科学協議会, 2019.5
- ・「百姓一揆から日本の近世を考える」『じっきょう 地歴・公民科資料』通巻89号, p.1-6, 実教出版, 2019.10
- ・「歴史研究に何ができるか—『第4次現代歴史学の成果と課題』を編みながら考えたこと—」『歴史科学』通巻235号, p.36-52, 2019.1
- ・「江戸儒学とは何だったのか」『歴史と地理』通巻690号, p.37-46, 山川出版社, 2015.12
- ・「書物と民俗のはざままで」苅部直、黒住真、佐藤弘夫、末木文美士、田尻祐一郎編『日本思想史講座5方法』, p.149-164, ペリかん社, 2015.12
- ・「近世日本の読書環境・流通環境」若尾政希編『書籍文化とその基底(シリーズ本の文化史3)』, p.87-122, 平凡社, 2015.10
- ・「書籍文化とその基底」若尾政希編『書籍文化とその基底(シリーズ本の文化史3)』, p.7-43, 平凡社, 2015.10
- ・「書物・メディアと社会」島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教5 書物・メディアと社会』, p.3-32, 春秋社, 2015.5
- ・「出版文化—書物は社会をどう変えたのか—」歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』, p.152-155, 東京大学出版会, 2015.3
- ・「神・儒・仏の交錯—「太平記読み」とその時代—」島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教2 神・儒・仏の時代』, p.49-86, 春秋社, 2015.1
- ・「神・儒・仏の時代」島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教2 神・儒・仏の時代』, p.3-17, 春秋社, 2015.1

- ・「書物・出版・蔵書研究から県史を読む」『山口県史の窓』 通巻 32 号,p.5-8, 山口県総合企画部スポーツ・文化局県史編さん室, 2014.6
- ・“Ideological Construction and Books in Early Modern Japan—Political Sense,Cosmology,and World Views—”Matthias Hayek, Paris Diderot University and Annick Horiuchi,Paris Diderot University 編『Listen,Copy,Read』, p.46-69, Koninklijk Brill,Leiden,Netherlands, 2014.9
- ・「深読みする歴史学—青木美智男における文化史の発見—」『歴史学研究』 通巻 921 号,p.49-58、64, 歴史学研究会, 2014.8
- ・「日本における「古典」の成立とその展開—『太平記』を事例として」『日本 18 世紀学会年報』 通巻 29 号,p. 22-24, 2014.6
- ・「江戸時代前期の社会と文化」『岩波講座・日本歴史第 11 巻』, p.279-314, 岩波書店, 2014.5
- ・「思想史という方法—歴史と主体形成—」『歴史学研究』 通巻 914 号,p.1-14, 歴史学研究会, 2014.1
- ・「『太平記』と「太平記読み」」『歴史と地理』 通巻 670 号,p.35-41, 山川出版社, 2013.12
- ・「農業の思想」『岩波講座・日本の思想四』, p.171-198, 岩波書店, 2013.8
- ・「安丸思想史の軌跡—民衆思想史から全体史へ—」『安丸良夫集巻 4』, p.369-385, 岩波書店, 2013.4
- ・「研究と人生のはざま—民衆思想史研究の軌跡—」『安丸良夫集巻 1』, p.377-394, 岩波書店, 2013.1
- ・「歴史の読み方、語り方」『如水会会報』 通巻 987 号,p.20-22, 如水会, 2013.1
- ・「太平記読み—『太平記評判秘伝理尽鈔』の位置」『アジア遊学』 通巻 155 号,p.132-137, 勉誠社, 2012.7
- ・「天変地異の思想」『図書』 通巻 758 号,p.13-19, 岩波書店, 2012.4
- ・「琉球における「書物・出版と社会変容」研究序説」紙屋敦之編『対馬・沖縄調査報告集』, p.85-94, 早稲田大学文学部紙屋敦之研究室, 2012.3
- ・「『太平記』は尊皇の書か?—『太平記』をして史学に益あらしめん」『歴史評論』 通巻 740 号,p.36-51, 歴史科学協議会, 2011.12
- ・「日本近世における儒教の位置」『日韓相互認識』 通巻 4 号,p.81-95, 日韓相互認識研究会, 2011.3
- ・「書物・出版と日本社会の変容」『歴史評論』 通巻 710 号,p.54-61, 歴史科学協議会, 2009.6
- ・「むかいあう歴史学—安丸良夫から時代を読む—」『歴史学研究』 通巻 854 号,p.52-59, 青木書店, 2009.6
- ・「近世人の世帯道具—信州更級郡岡田村寺澤直興筆『世帯道具覚帳』の世界」『書物・出版と社会変容』 通巻 5 号,p.117-197, 2008.11
- ・「近世の蔵書形成と書物の流通—信州更級郡岡田村寺澤直興の場合」日本文学協会編『日本文学』 通巻 57 号,p.50-58, 日本文学協会, 2008.10
- ・「軍書を携えし者たち—安藤掃雲軒の場合」鈴木俊幸監修『江戸文学』 通巻 39 号,p.126-129, ペリかん社, 2008.9
- ・「『太平記読み』の享受者たち—肥前蓮池藩鍋島直澄の場合—」深谷克己編『藩世界と公儀—九州地方を中心に』, p.18-25, 2008.5
- ・「安藤昌益の思想—新発見の「天地象図」から見えてくること」浪川健治・佐々木馨編『北方社会史の視座 歴史・文化・生活 第 2 巻』, p.263-289, 清文堂出版, 2008.2
- ・「『浮世物語』から時代を読む—近世人の思想形成と書物—」『歴史評論』 通巻 694 号, 校倉書房, 2008.1
- ・「謎の書物『土芥寇讎記』—「大名評判記」とはなにものか?—」『歴史読本』 第 52 巻第 7 号, p.66-81, 新人物往来社, 2007.6
- ・「解説・安藤昌益、自然真宮道」諏訪春雄他編『日本古典への誘い 100 選 II』, 東京書籍, 2007.3
- ・「歴史と主体形成—書物・出版と社会変容—」『書物・出版と社会変容』研究会編『書物・出版と社会変容』 通巻 2 号,p.1-36, 2007.1
- ・「歴史と主体形成—書物・出版と近世日本の社会変容—」『歴史学研究』 通巻 820 号,p.11-19, 青木書店, 2006.10
- ・「信濃国更級郡岡田村寺沢家文書『書物直段付覚』(松本白木屋付)」『書物・出版と社会変容』研究会編『書物・

出版と社会変容』 通巻 1 号, 2006.4

- ・「近世における楠正成伝説」『国文学—解釈と鑑賞』 平成 17 年 10 月号, 2005.10
- ・「『書物の思想史』研究序説—近世の一上層農民の思想形成と書物」『一橋論叢』 第 134 巻第 4 号, p.3-29, 一橋学会, 2005.10
- ・「近世人の思想形成と書物—軍書と医業・天文曆書を中心に」磯部彰編『ナオ・デ・ラ・チーナ』 通巻 9 号, p.28-38, 東北大学東北アジア研究センター特定領域事務局, 2005.3
- ・「近世人の思想形成とメディア」『日本思想史学』 通巻 36 号, p.26-34, 2004.9
- ・「近世人の思想形成と書物—近世の政治常識と諸主体の形成—」『一橋大学研究年報 社会学研究』 通巻 42 号, p.111-173, 一橋大学, 2004.3
- ・「近世からみえる『太平記』」長谷川端編『論集 太平記の時代』, 新典社, 2004
- ・「日本近世における軍書の歴史的位罫」『軍記と語り物』 通巻 39 号, p.24-34, 2003.3
- ・「享保～天明期の社会と文化」大石学編『日本の時代史 16 享保改革と社会変容』, 吉川弘文館, 2003
- ・「『本佐録』の形成—近世政道書の思想史的研究—」『一橋大学研究年報 社会学研究』 通巻 40 号, 2002
- ・「つながりあう歴史学—思想史研究から深谷克己を読む—」『民衆史研究』 通巻 64 号, 2002
- ・「近世の政治常識と諸主体の形成」『歴史学研究』 通巻 768 号, 2002
- ・「県史編さん室所蔵接待家文書「確龍先生自然数妙天地象図」」『青森県史研究』 通巻 5 号, 2001
- ・「政治常識の形成と『太平記』」『歴史評論』 通巻 611 号, 2001
- ・「『東照宮御遺訓』の形成—『御遺訓』の思想史的研究序説—」『一橋大学研究年報 社会学研究』 通巻 39 号, 2001
- ・「近世政治思想と『太平記』(軍記文学研究叢書 9)」『太平記の世界』, 汲古書院, 2000
- ・「書物から時代を読む——読書研究のすすめ」『一橋論叢』 第 123 巻第 4 号, 2000
- ・「百姓一揆物語と『太平記読み』」『民衆運動史——近世から近代へ 2』, 青木書店, 1999
- ・「幕藩領主の思想史的研究序説——『陽広公偉訓』の歴史的位罫」『富山史壇』 通巻 125 号, 1998
- ・「池田光政の思想形成と『太平記読み』」『仏教史学研究』 第 40 巻第 2 号, 1997
- ・「『天道』と幕藩制秩序」『日本思想史その普遍と特殊』, ペリかん社, 1997
- ・「安藤昌益の思想形成と『太平記読み』」『日本歴史』 通巻 583 号, 吉川弘文館, 1996
- ・「幕藩制の成立と民衆の政治意識」『新しい近世史 5』, 新人物往来社, 1996
- ・「『太平記読み』の歴史的位罫——近世政治思想史の構想」『日本史研究』 通巻 380 号, 1994
- ・「延享期安藤昌益の思想—『博聞抜粹』の基礎的研究—」『日本文化研究所研究報告』 通巻 28 号、東北大学、1992
- ・「佐藤直方と太平記読み」『日本思想史学』 通巻 24 号、1992 \*
- ・「安藤昌益の病氣論-身体・社会・自然-」『歴史学研究』 通巻 639 号、1992
- ・「安藤昌益の本草学—肉食をめぐる—」『日本文化研究所研究報告』 通巻 28 号、東北大学、1992
- ・「天変地異の思想—安藤昌益の天人相関説と西川如見—」『日本文化研究所研究報告』 通巻 26 号、東北大学、1990
- ・「秋田藩の農民政策と安藤昌益の学問否定-『内経』理解の源泉-」『季刊日本思想史』 通巻 29 号、1987
- ・「安藤昌益の学問否定の本質」『日本思想史への試論 1982 年・1983 年』、みしま書房、1984

#### (d) その他

[研究・調査報告書]

- ・「書物・出版と社会変容」研究会(呼びかけ人 若尾政希)編『書物・出版と社会変容』第 1 号～第 26 号(継続中), ISSN 2185-1131, 2006～現在に至る

- ・日韓相互認識研究会（編集責任 若尾政希）『日韓相互認識』第1号～第9号（継続中）,2008～現在に至る
- ・若尾政希編『『大名評判記』の基礎的研究II』,日本学術振興会科学研究費補助金研究成果,2007.3
- ・若尾政希編『幕藩領主の思想史的研究—近世前期を中心として』,科学研究費補助金研究報告書,2004.3
- ・若尾政希編『『大名評判記』の基礎的研究』,日本学術振興会科学研究費補助金研究成果,2006.3
- ・若尾政希編『東アジア出版文化の研究—学問領域として書誌・出版の研究を確立するために』,特定領域研究報告書,2005.1
- ・若尾政希編『『土芥寇讎記』の基礎的研究』,文部科学省科学研究費補助金研究成果,2004.3

#### [書評・新刊紹介]

- ・(書評) 井上泰至著『近所刊行軍書論：教訓・娯楽・考証』（笠間書院,2014.9.12）,『日本歴史』通巻836号,2018.1.10
- ・(書評) 岩橋清美著『近世日本の歴史意識と情報空間』（名著出版,2010.12.1）,『国史学』通巻205号,2011.12.1
- ・(書評) 大門正克編著『昭和史論争を問う—歴史を叙述することの可能性』（日本経済評論社,2006.6.1）,『社会思想史研究』通巻31号,2007.9.30
- ・(新刊紹介) 渡辺浩一著『まちの記憶』（清文堂出版,2004）
- ・(書評) 澤登寛聡著『農家調宝記』（岩田書店,2002）,『古文書研究』通巻57号,2003.5
- ・(新刊紹介) 柴田純著『江戸武士の日常生活—素顔・行動・精神—』（講談社,2001）,『日本史研究』通巻470号,2001.10

#### [辞書・辞典等の項目執筆]

- ・新村出編『広辞苑第七版』,岩波書店,2018.1.12（執筆項目：日本近世史関係項目）
- ・新村出編『広辞苑第六版』,岩波書店,2008.1.11（執筆項目：日本近世史関係項目）
- ・『日本史文献辞典』,弘文堂,2003（執筆項目：「太平記読み」の時代、他）
- ・『歴史学事典9 法と秩序』,弘文堂,2002.2.5（執筆項目：非理法権天）
- ・子安宣邦編『日本思想史事典』,ペリカン社,2001（執筆項目：太平記）
- ・『日本歴史大事典』,小学館,2000.7.10（執筆項目：安藤昌益、他）
- ・鹿野政直他編『民間学辞典・人名編』,三省堂,1997.10（執筆項目：安藤昌益、他）

## B. 本研究科着任後の研究活動（着任1998年）

### (a) 国内外学会発表

- ・“Defining the historical role of early modern manuscripts in Japan”, Symposium Religion in the Age of the Book, 2019.6, Leiden University \*
- ・「書物・出版はいかに社会を変えてきたのか」,中国四国歴史学地理学協会,2019.6,高知大学\*
- ・「書物・出版は日本社会をいかに変えたのか—大名の政治から百姓一揆まで—」,一橋フォーラム21「いま、日本史がおもしろい」,2019.11,如水会館\*
- ・「日本近世を生きた人びとの思想形成を考える」,一般財団法人東方学会令和元年度秋季学術大会,2019.11,日本教育会館\*
- ・「天道と日本近世の政治・社会」,檀国大学校日本研究所碩学教授招聘講演会,2019.9,檀国大学校日本研究所\*
- ・「書物・出版と日本近世」,ストラスブール大学講演会,2018.11,ストラスブール大学
- ・“The historical role of manuscripts in early modern Japan”, La vie culturelle et intellectuelle du Japon des Tokugawa au prisme

des livres, 2018. 11, Université Paris Diderot \*

- ・「『シリーズ〈本の文化史〉3』を編みながら考えたこと」, 大阪歴史科学協議会例会: テーマ: 「書物・読書・読者の文化史」, 2018.2, 大阪市立社会福祉センター第7会議室(3月10日) \*
- ・「いまなぜ歴史実践か」, 歴研シンポジウム 現代歴史学の新たな地平を求めて—『第4次 成果と課題』再考—, 2017.12, 早稲田大学 \*
- ・「『歴史研究に何が出来るか—『第4次 現代歴史学の成果と課題』を編みながら考えたこと—」, 第33回 歴史学入門講座(2017年度), 2017.7, 大阪大学会館講堂(7月30日14時~) \*
- ・「近世人の思想形成と「世界」」, Imaging the world in premodern Japan, 2016.3, カリフォルニア大学ロサンゼルス校 \*
- ・「書物・出版は社会をいかに変えてきたのか—「書物・出版と社会変容」研究会の現在と展望—」, 日本文芸研究会第67回総会公開講演会(6月6日), 2015.6, 東北大学文学部第一講義室 \*
- ・「日本における書物・出版研究の現在」, 2014年台湾大学日本語文学系創設20周年記念シンポジウム(1月21日), 2014.11, 台湾大学文學院演講庁 \*
- ・“A Discussion of Textual Aspects and the Dissemination of Tōshōgū Goikun”, Association for Asian Studies 2013 Annual Conference, 2013.3, Manchester Grant Hyatt San Diego, California, USA \*
- ・「日本における「古典」の成立とその展開—『太平記』を事例として(共通論題「18世紀の〈地下世界〉を掘る」の第4報告)」, 日本18世紀学会, 一橋大学国立東キャンパス東1号館1201 \*
- ・「近世における「日本」意識の形成」, 「近代国家形成の比較史的研究」プロジェクト, 2012.12, 青山学院大学 \*
- ・「歴史の読み方、語り方」, 一橋大学開放講座, 2012.11, 如水会館 \*
- ・「思想史研究の方法—書物と民俗との間で」, 第74回「書物・出版と社会変容」研究会, 2012.6, 一橋大学佐野書院
- ・「天変地異の思想」, 第14回日韓歴史共同研究シンポジウム, 2011.8, 韓国木浦大学 \*
- ・「近世日本の思想史的位置」, シンポジウム比較史的にみた近世日本—東アジアの中の日本, 2010.11, 明治大学 \*
- ・「安藤昌益の思想形成—米・自然・飢饉」, 韓国全北大学国際学術会議, 2010.10, 韓国全北大学 \*
- ・「安藤昌益の思想形成と書物」, 青森県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会・招待講演, 2010.10, 青森県立八戸西高等学校 \*
- ・「むかいあう歴史学—安丸良夫から時代を読む—」, 歴史学研究会総合部会企画民衆思想史の発想と方法—安丸良夫『文明化』の経験を読む—, 2008.3, 一橋大学 \*
- ・「歴史と主体形成—書物・出版と近世日本の社会変容—」, 歴史学研究会2006年度大会・全体会, 2006.5, 学習院大学 \*
- ・「近世人の思想形成と書物—軍書と医薬・天文曆書を中心に」, 国立民族学博物館プロジェクト「口頭伝承と文字文化」研究集会, 2004.10, 国立民族学博物館 \*
- ・「思想史研究への招待—書物・常識・主体形成—」, 歴史学入門講座, 2004.7, 機関誌会館(京都市) \*
- ・「安藤昌益からみえる日本近世」, 「東アジアの出版文化」研究集会(沖縄学会), 2004.6, 八汐荘会議室(沖縄県那覇市)
- ・「安藤昌益からみえる日本近世」, 名古屋近世史研究会, 2004.4, 愛知県中小企業センター \*
- ・「近世人の思想形成と書物—政治常識・コスモロジー・世界観—」, ブリテッシュ・コロンビア大学日本学センター主催国際シンポジウム, 2003.11, ブリテッシュ・コロンビア大学 \*
- ・「近世人の思想形成とメディア」, 日本思想史学会主題講演, 2003.10, 筑波大学 \*
- ・「一八世紀日本社会の変容と書物」, 「書物・出版と社会変容」研究会第1回例会, 2003.8, 一橋大学 \*

- ・「日本近世における軍書の歴史的位置」, 軍記・語り物研究会シンポジウム「軍記物語の版本と読み」, 2002.11, 法政大学\*
- ・「近世の政治常識と諸主体の形成」, 歴史学研究会2002年度大会・近世史部会報告, 2002.6, 立教大学\*
- ・「仏教史を見直す—顕密体制論と批判仏教—思想史の立場から」, 日本仏教研究会第10回記念シンポジウム, 2001.12, 東京大学\*
- ・「つながりあう歴史学—思想史研究から深谷克己を読む—」, 民衆史研究会2001年度大会シンポジウム, 2001.12, 早稲田大学\*
- ・「安藤昌益の思想形成と『太平記読み』」, 岩手古文書学会講演会, 2001.9, 盛岡市中央公民館\*
- ・「日本近世における儒教の位置—近世前期を中心に—」, 日韓歴史共同研究プロジェクト第4回シンポジウム, 2001.8, ソウル大学校\*
- ・「コメント—「地域社会から文化を考える」をめぐる—」, 2001年度近世史サマーセミナー, 2001.7, 群馬県赤城山\*
- ・「『和漢軍書』出版の思想史的研究——作者・読者・地域社会」, 東アジアの出版文化研究集会, 2001.6, 一橋講堂
- ・「『太平記読み』の時代と百姓—揆物語」, 鳥取地域史研究会講演会, 2001.2, 鳥取県立博物館\*・「政治常識の形成と『太平記』」, 歴史科学協議会2000年度大会主題報告, 2000.9, 京都薬科大学\*
- ・「近世政治思想と『太平記』」, 名古屋軍記物語研究会, 1998\*

#### (b) 国内研究プロジェクト

- ・科学研究費・基盤研究(A), 「アーカイブズとしての書籍—書籍史料を次世代に伝えるために—」(研究代表者), 一橋大学, 2018.4.1-2023.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「『日韓相互認識』研究の新展開」(研究分担者、事務局担当), 日本学術振興会, 2018.4.1-2023.3.31
- ・大川情報通信基金研究助成, 「日本近世におけるメディアと社会変容—『東照宮御遺訓』を中心に—」(研究代表者), 公益財団法人大川情報, 2017. 3-2018. 2
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「『日韓相互認識』研究の深化・発展のために—東アジア情勢のなかで—」(研究分担者、事務局担当), 日本学術振興会, 2014.4.1-2018.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「『書物・出版と社会変容』研究の深化と一般化のために」(研究代表者), 一橋大学, 2011.4.1-2016.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「『日韓相互認識』研究の深化のために」(研究分担者、事務局担当), 日本学術振興会, 2010.4.1-2014.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(B), 「藩世界と東アジア世界—西日本地域を中心に—」(研究分担者), 日本学術振興会, 2010.4.1-2013.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「『書物・出版と社会変容』研究の総合化に向けて」(研究代表者), 日本学術振興会, 2008.4.1-2012.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」(研究分担者、事務局担当), 日本学術振興会, 2006.4.1-2010.3.31
- ・科学研究費・基盤研究(A), 「日本における書物・出版と社会変容」(研究代表者), 日本学術振興会, 2005.4.1-2009.3.31
- ・文科省科学研究費・特定領域研究(2), 「『和漢軍書』出版の思想史的研究—日本近世の出版環境と社会変容」(研究代表者), 一橋大学, 2003.4.1-2005.3.31
- ・文科省科学研究費・特定領域研究(1), 「東アジア出版文化の研究—学問領域として書誌・出版の研究を確

立するために」(研究代表者), 一橋大学, 2004.4.1-2005.3.31

- ・文部科学研究費。特定領域研究(1), 「東アジア出版文化の研究」(総括班)(研究分担者), 東北大学(内分担金 1000 千円)を一橋大学に配分, 2004.4.1-2005.3.31
- ・文部省科学研究費補助金, 「幕藩領主の思想史的研究——近世前期を中心として」(研究代表者), 文部省, 2000-2003
- ・文部省科学研究費補助金, 「東アジア出版文化史の研究をめぐる企画調査」(研究分担者), 文部省, 1998
- ・文部省科学研究費補助金, 「近世社会における政道書の歴史的意義と『太平記読み』」(研究代表者), 文部省, 1998-1999
- ・文部省科学研究費補助金, 「近世における仏教治国論の史料的研究」(研究分担者), 文部省, 1998-1999

#### (c) 国際研究プロジェクト

- ・オランダ・ライデン大学における“Symposium Religion in the Age of the Book”の企画に関わる(2019.6, Leiden University)
- ・フランス、パリディドロ大学における“La vie culturelle et intellectuelle du Japon des Tokugawa au prisme des livres”の企画に関わる(2018.11, Université Paris Diderot)
- ・1998年より開催している日韓歴史共同研究シンポジウムの事務局長として、企画の統括

#### (d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・歴史学研究会研究部長として2014年の歴研大会の全体会を企画・統括。2012、13年度の研究活動を総括
- ・2002年より「書物・出版と社会変容」研究会の呼びかけ人として研究会の企画・運営(現在140回開催、継続中)
- ・2017年より日本学術会議会員として歴史教育、歴史資料の保全等のシンポジウムを統括(継続中)

### C. 受賞

- ・岩瀬文庫賞(書物文化研究への貢献、及び『太平記読み』の時代)・『安藤昌益からみえる日本近世』に対して), 愛知県西尾市・中日新聞社, 2008.5

---

## 6. 学内行政

### (A) 役員・部局長・評議員等

### (B) 学内委員会

附属図書館委員

学部教育専門委員(2009年4月~2011年3月)

学生委員

年報委員、委員長

入学試験委員

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学非常勤講師など

富山大学人文学部併任(1998年12月~1999年3月、2002年4月~9月、2004年2月1日~2月29日)

横浜国立大学教育人間科学部併任(2000年4月~2001年3月)

明治大学文学部兼任講師（2000年4月～2003年3月）  
慶應義塾大学法学部講師（非常勤）（2000年4月～2002年3月、2004年4月～2006年3月、2008年4月～2010年3月、2012年～4月～2014年3月）  
千葉大学文学部併任（2002年10月～2003年3月）  
茨城大学人文学部併任（2003年4月～2003年9月）  
東京大学文学部併任（2003年10月～2004年3月、2004年10月～2005年3月）  
慶應義塾大学文学部講師（非常勤）（2003年4月～2005年3月、2009年4月～2011年3月）  
学習院大学文学部講師（非常勤）（2004年4月～2006年3月）  
法政大学大学院文学研究科講師（非常勤）（2005年3月～2007年3月）  
国立歴史民俗博物館共同研究員（併任）（2006年4月～2010年3月）  
東京外国語大学外国語学部併任（2006年4月～2016年9月）  
九州大学大学院比較社会文化学府併任（2009年4月～9月）  
京都大学文学部・大学院文学研究科講師（非常勤）（2011年4月～9月）  
大阪大学文学部・大学院文学研究科講師（非常勤）（2011年4月～9月）  
関西大学大学院文学研究科講師（非常勤）（2011年10月～2012年3月）  
高知大学人文学部講師（非常勤）（2013年4月～9月）  
筑波大学大学院講師（非常勤）（2013年4月～9月）  
神戸大学文学部・大学院人文学研究科（非常勤）（2018年4月～9月）  
九州大学文学部・大学院人文科学府講師（非常勤）（2019年4月～9月）  
中央大学文学部兼任講師（2002年4月～現在に至る）  
東京慈恵会医科大学講師（非常勤）（2008年4月～現在に至る）  
明治大学大学院文学研究科兼任講師（2010年4月～現在に至る）

#### **（b）所属学会および学術活動**

歴史学研究会研究部長（2013.6～2114. 5）  
歴史学研究会委員長（2019.6～ 現在に至る）  
日本歴史学協会常任委員（2012.7～ 現在に至る）  
日本歴史学協会文化財保護特別委員会委員長（2015.7～ 現在に至る）  
日本思想史学会評議員（2000.4～ 現在に至る）  
歴史科学協議会監事（2007.4～ 2009.3）  
東京歴史科学研究会代表委員（2007.4～ 2009.3）

#### **（c）公開講座・市民講座**

- ・「『太平記読み』の時代と安藤昌益」、盛岡市中央公民館歴史講演会、2000.10、盛岡市中央公民館
- ・「近世・読書の時代のはじまり」、野田市市民講座、2008.9、野田市公民館

#### **（d）高校生向け出張講義・模擬講義**

- ・桐朋女子学園（中高）に出張講義「学者という仕事」、2009. 12

#### **（e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）**

東芝グループ従業員向け研修にて歴史学の講義（2010、2011）

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- ・日本学術会議連携会員、会員として各種分科会に参加
- ・日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会委員長として、報告「日本学術会議資料の保存・管理と公開に向けて」を発出、2020. 9. 8
- ・日本学術会議史学委員会中高大歴史教育の分科会委員長として、提言「歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」を発出、2019. 11. 22

---

## 9. 一般的言論活動

- ・「文化財「活用」の是非」,毎日新聞、2018.4.18
  - ・「大学テストに浮上～近現代も学ぶ「歴史総合」も」、朝日新聞、2020.10.22
- 等々